

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600028		
法人名	株式会社新宅組福祉事業部		
事業所名	のぞみの里		
所在地	長野県木曾郡木曾町福島5569番地		
自己評価作成日	平成21年12月17日	評価結果市町村受理日	平成22年4月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092600028&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設であり、地域と共に目指しながら利用者が少しでも自立できるよう支援していく。重度化対応指針を再確認しターミナル加算をできるように。看護職員の充実を図っている。計画的に個別レク(買い物・お茶会・食事等)の支援を行なっている。併設の小規模多機能型と協力して、常に交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年、福島県所跡近くの木曾川沿いの住宅地に、一階は小規模多機能型居宅介護、二階にグループホーム「のぞみの里」が開設された。利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるようなサービスを目指した理念は職員に浸透し、地域と日常的につながりを持てるような取り組みと、利用者一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーの確保を守るような支援がされている。転倒防止等安全面に配慮したクッションフロアは足元に優しく、それぞれの居室内に手すり洗面所が設置されているほか、家族が宿泊できる部屋も用意されているなど、住環境が整えられている。運営推進会議の定期的な開催や地域住民とともに防災訓練や行事を実施されているほか、ご家族へは毎月「のぞみの里ニュース」で報告を行なうなど、地域密着型サービスとしての積極的な取り組みをされていた。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>日々の暮らしの中で、本人のできることを活かしながら、生活リハビリテーションを行い、できる限り自立した生活が送れるよう支援に心がけている。</p>	<p>事業所の理念は、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える内容となっている。事業所が運営やケアサービスを提供する上で拠り所となるよう、理念は各フロアの入り口に掲示され、職員に意識づけられていた。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>ウエスをいただいたり認知症の対応を適切にしている。又、利用者のほしいものを仕入れて小売等をしてきている。</p>	<p>地域との交流は日常的に行われており、中学生の職場体験や傾聴ボランティアの受け入れ、学校行事への参加など、近隣の人とのふれあう機会を大切にしている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>第2回地域密着講座開催。テーマ「認知症」</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>身体状況・精神面の変化について、事故・ヒヤリハットについても報告し改善に努めている。GH支援計画についても会議で報告している。</p>	<p>運営推進協議会には、地元の代表者、民生委員、包括支援センター、広域連合担当者、利用者家族代表、中学校教諭等が委員となっている。会議の内容は職員に周知し、話し合われたことが、サービスの質の向上につながるような取り組みがされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括センターとの連携を図りながら支援している。</p>	<p>地域包括センターとの連絡は密にとり、情報の共有に努められている旨うかがった。</p>	<p>広域連合や町の担当者の理解や支援を得るためには、現場の状況をケアの実際を理解していただくことも重要です。福祉担当者の研修場所として事業所を活用してもらったり、行事に参加していただくなど、利用者の暮らしぶりを具体的に見ていただくような取り組みを期待します。</p>

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH玄関、居室は夜間でも施錠せず支援している。現時点では、身体拘束の状況はありません。	身体拘束をしないケアの実践は、運営規定に記されている。職員は、身体拘束によって利用者に与える苦痛を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の身体の異変がないか入浴時等に確認し対応している。関連法について学ぶ機会を設けたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員ではないが個人の研修にて学んでいる。必要に応じ支援検討している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	関係書類も整備し、十分な説明にも努力しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の申し送りで職員からの意見や来所時家人との相談会議での意向を月2回の管理者会議で反映し結果を職員にも報告している。運営推進協議会でも必要にて報告させていただいている。	事業所の様子は月一回の「のぞみの里ニュース」で家族に報告されている。事業所の入り口に意見箱を設置したり、家族の面会の折には意見や要望を聴くよう努められているが、遠方に住むご家族も多く、家族会の設立は難しい状況である。	個々の家族の状況を汲み取った支援がされています。今後更に、家族と本人の結びつきが途切れることのないよう、また意見や苦情を伝えられやすいよう、家族同士が交流できるような取り組みを望みます。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りで職員からの意見・提案を管理者会議で反映している。	利用者との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきや、ミーティングなどで出された意見は、話し合いながら調整し、運営に取り入れられている。職員が意見を言いやすい職場の雰囲気を感じられた。	

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>厳しい経営環境の中で、できるだけ条件整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望を受入研修等の機会を与えている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム宅老所連絡会に加入しネットワークづくりに努めている。郡内の他施設との交流も始まってきている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人の思いを傾聴しアセスメントに反映している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家人の意向を傾聴し支援計画に反映し努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントし必要に応じ検討支援している。</p>		

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添って理解しあえるように努めています。意思疎通の困難な方にも関わり方を検討し共に過ごせる環境作りに努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り家人との関わりを大切にしながら、来所時に他のご利用者とも交流できる支援をしている。(ピアノ演奏・お茶会・歌唱等)		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み方との交流が継続できるよう努めています。受診や買い物の際にもご本人の知人とお会いし挨拶や会話ができています。	利用者のプライバシーに配慮しつつ、人間関係や地域社会との関わりが閉鎖的にならないよう、地域との接点を持ちながら関係を継続させるための支援がされていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の有する力や想いを把握し利用者間において、役割を引き受けてもらい交流が深まるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は契約終了者がいなかった。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に意向を伺うと共に支援状況が変更になった際職員や必要時家族にも入っていただきカンファレンスを開催して把握している。	職員は、日々の関わりの中で言葉や表情から、思いや意向の把握に努めている。業務日誌に「つぶやき」の欄を設け、カンファレンスで検討し支援につなげている。	

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に伺いアセスメントに努め日々の暮らしの会話等から思いの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りの際一人ひとりの様子を職員間で共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望についてカンファレンスや申し送りで支援検討し、家人・職員と相談しながらケアプランのモニタリングを3ヶ月および必要時開催し計画を作成している。	計画作成担当者が利用者と家族の意向・要望を把握して立案した計画は、チームで話し合い作り上げている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングが行なわれていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌リーダーがその日の個人記録を担当し、朝夕の申し送りで共有しながら日々検討支援している。その日に出勤していない職員にも申し送りノートにて把握し見直ししている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のニーズ対応できるよう相談しながら、支援しながらその日に職員が検討している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流が可能な方には参加していただいている。(相撲大会・運動会・文化祭等)		

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	木曾町4医療機関と協力協定を契約し、隣町のかかりつけ医院の受診支援もしている。月1回の予約以外にも緊急時の対応も支援している。インフルエンザの予防接種を契約医に来ていただき受けました。	協力医療機関への受診や通院は、ご本人やご家族の希望に応じて対応されていた。緊急時の医療機関との連携、情報の伝達方法等も構築されている様子が伺えた。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回勤務の看護師や准看護師に身体・精神面の相談をしながら支援している。看護・介護の連携が図れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院される方が見えなかった。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師から終末期について指示のある方は、職員・家人とのカンファレンスにてケアプランを作成し、主治医にもケアプランを提示し緊急時の支援、終末期ケアの連携を図っている。	利用者の重度化に伴い指針を作成し、事業所が対応しうる最大の支援方法を検討されている。	一度方針を決めても、家族の思いは常に揺れ動きます。本人と家族の安心と納得を得られるよう、状況の変化の度に話し合いを繰り返すとともに、事業所の力量や体制を見極め、他の利用者への影響なども踏まえた対応の検討を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルをもとに緊急時支援が図れるよう見直している。今後定期的な訓練も必要である。誤嚥状況の対応には、訓練を活かした支援ができた。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を月1回防火管理者の計画のもと実施している。	事業所は住宅地に建設されているため、地域住民の参加・協力のもと、火災や災害を想定した訓練が行われている。消防団との連携も図られ、協力体制が築かれている。	定期的な訓練が行われていることが確認できました。ホームが建物の2階にあることや、今後利用者が重度化していくことを考え、利用者の状態に応じた安全な避難ができるよう、更なる取り組みを期待します。

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を尊重し、言葉かけにも最善をつくしている。	利用者は人生の先輩であり、一人ひとりの尊厳を大切にすることの重要性は、事業所の理念にも示されている。職員は利用者の誇りを損ねるような言葉掛けをしないよう、配慮して接する姿がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の尊厳を尊重し、言葉かけにもその日の状況に合わせて支援しています。食べたいメニューを伺い献立を考案している。毎日の掃除や調理も自己決定できるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の過ごしやすい環境作りに取り組んでいます。ハーモニカ演奏・歌・お部屋にてテレビ観賞で過ごされる方と希望に合わせて支援しています。職員から余暇の提案もさせていただくこともあります。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店・美容院の支援。美容院に行かない方については、施設内で支援させていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みに合わせたメニュー、誕生日メニュー・きせつの行事食・糖尿食・減塩食等食事が楽しいものになるよう努めています。準備や片付けも一緒に取り組んでいます。	利用者とともに買い物に行き、希望を踏まえながら献立を決めたり、配膳やあと片付けなど利用者の力を活かせるような場面作りもされていた。職員は同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるような雰囲気作りも大切にされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿食の方に合わせて病院管理栄養士に相談し、1ヶ月前からメニューをいただき様子観察しています。毎日の食事量を記入し、体重増減等も観察しています。		

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを支援している。夜間は義歯をお預かりして洗浄してる。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合わせて排泄用品の検討を常時支援させていただいています。時間帯での排泄介助やトイレ誘導で様子観察し検討しています。	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導し、トイレでの排泄ができるような支援や、看護師に相談し自然排便を促すよう取り組まれている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜、繊維質の多いものを調理に取り入れたり、軽体操を毎日実施している。食事形態も刻み・ミキサー食・水分補給の支援もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる方もいらっしゃるが、一日おきの入浴で支援している。午前午後と入浴可能にしたいが、業務上困難であり検討したい。入浴がお好きでない方にも湯船に浮かべる小物で楽しめる支援している。	職員は入浴時の羞恥心や恐怖心を理解し、無理強いせず一人ひとりの意向を察した入浴支援が行なわれている。足浴やミカン浴など、ゆっくり温まり安らげるような工夫がされていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の必要な方の支援。シーツ交換・寝具を干したり、布団乾燥に出して清潔を保持し、安眠できるよう取り組んでいる。夜間入眠できない方のそばに寄り添い寝入るまで支援することもある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を添付しており、全職員が理解できるよう努め、夜勤者が翌日の薬の仕分けをし、服薬時は2人体制で服薬確認している。		

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の有する力や想いを把握し役割を持っていただき、外出や塗り絵、歌唱等の楽しみを支援し過ごしていただいている。本人の好きなお菓子を買に行けるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・個別レクにて外食やお茶レクの支援も計画し実施している。その日の希望になるべく添えるように努めている。	天気のよい日には、一人ひとりの体調に合わせて散歩や買い物など、積極的に外出されている旨うかがった。時には少人数でのドライブや外食支援などで、気分転換ができるような支援もされている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理可能な方には外出時、本人に支払いをしていたいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけていただき会話できるように支援している。(家人事情により電話が出来ない方もいらっしゃる。)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた空間のレイアウトに努めている。作成した作品を居室に飾り個々の好みに配慮している。	台所と共有ホール、居間は一体的なつくりで、すべてが視界に入りやすい。ソファやテーブルの配置や柱などにより、落ち着いてくつろげるスペースができていた。利用者による貼り絵の作品などの装飾が、暖かい雰囲気をかもし出していた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのソファやテーブルの配置席順を工夫している		

外部評価結果(のぞみの里 グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に合わせて部屋作りを支援している。	居室には使い慣れたなじみのものや家族の写真など、本人が安らぎを得るような落ち着ける空間になっていた。整容の為に各部屋に洗面台が設置されていたり、居室の入り口の扉がそれぞれ違ったデザインになっているなど、細かい配慮がされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クッションフロアーで転倒予防になっている。		